



〔海の状況 (6/16~7/15) 〕

- ・ 神子地先の表面水温… 6月中旬から下旬にかけて、平年並み(平年差±0.5℃)で推移し、7月初旬から中旬にかけては、平年よりかなり高め(平年差 1.0~1.5℃)から平年よりはなはだ高め(平年差 1.5~2.0℃)で推移した。(図1)
- ・ 米ノ地先の表面水温… 6月中旬から下旬にかけて、平年並み(平年差±0.5℃)で推移し、7月初旬から中旬にかけては、平年よりやや高め(平年差 0.5~1.0℃)から平年よりかなり高め(平年差 1.0~1.5℃)で推移した。(図2)

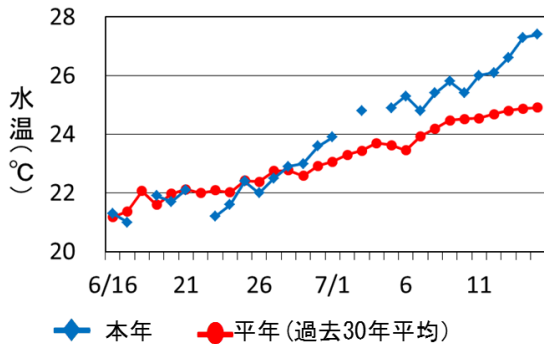


図1. 若狭町神子地先における表面水温の推移

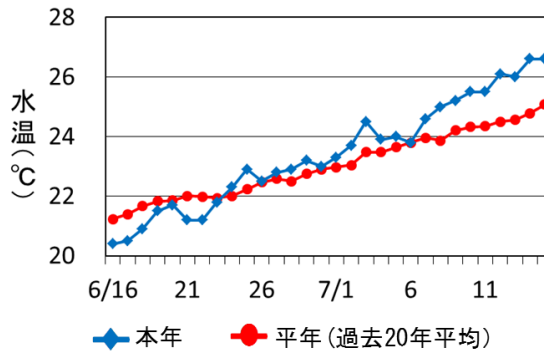


図2. 越前町米ノ地先における表面水温の推移

〔若狭湾および周辺海域の海況:6月〕

6月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布は、表層(0m)では、若狭湾の一部で20~22℃と前年より高くなっていた。水深100mでは、山陰・若狭沖冷水域の規模は昨年並みで、はなはだ離岸していた。(図3)

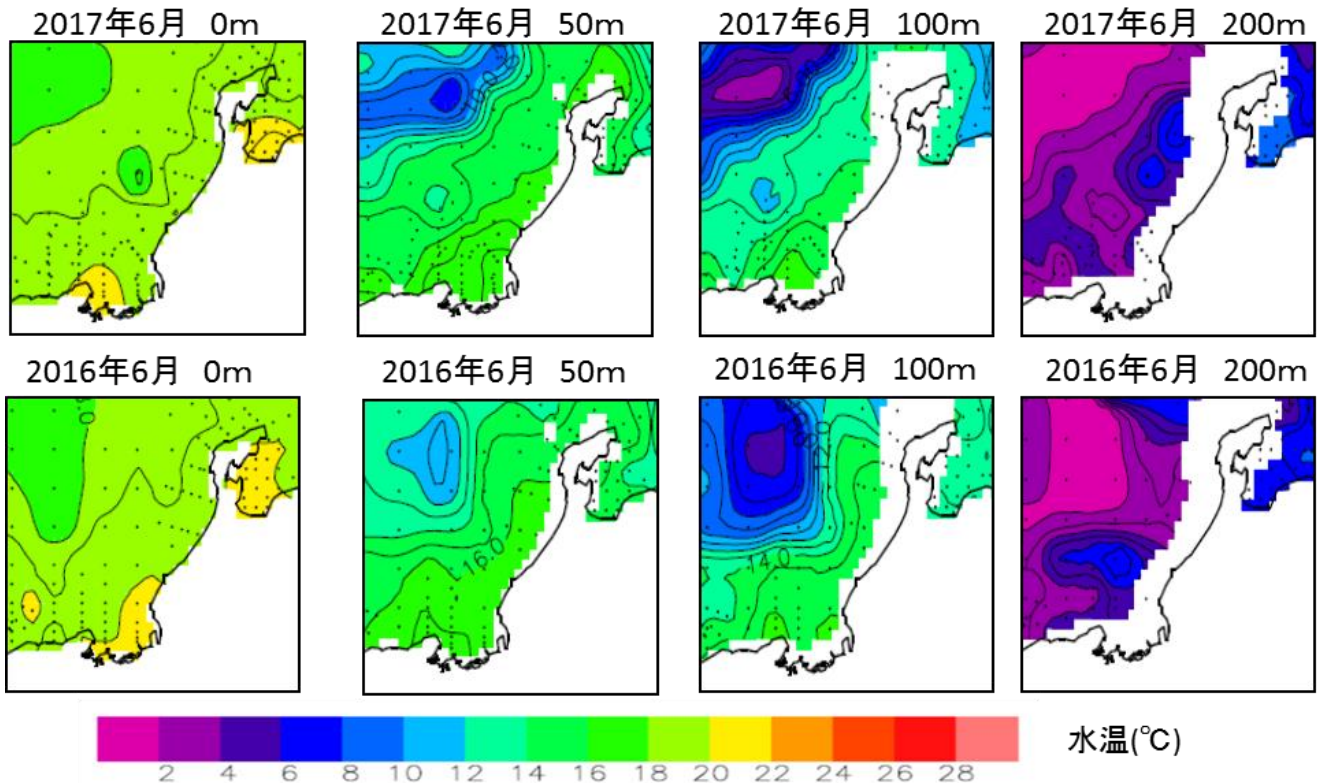


図3. 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図 (日本海区水産研究所の日本海漁場海況速報より抜粋)

平成 29 年度 第 2 回 日本海海況予報

水産研究・教育機構 日本海区水産研究所から日本海海況予報が発表されましたので概要をご紹介します。

○対馬暖流域の表面水温はやや高め(1.0℃程度)で経過する。

○対馬暖流域の 50m 深水温は日本海北部及び西部ともにやや高め(1.0℃程度)で経過する。

○山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、規模は平年並みでかなり離岸で経過する。

※予報は水産研究・教育機構のホームページ(<http://www.fra.affrc.go.jp>)においても閲覧することができます。
(漁場環境グループ 山下 慎也)

〔県内の漁模様：6月〕

2017年6月の県内の総漁獲量は1,074tで、昨年同月を281t下回った。

〔定置網〕

漁獲量は849tで、昨年同月を186t下回った。サワラ、トビウオ、マダイ等は昨年同月を上回り、アジ類、サバ類、ブリ類等は下回った。

〔底びき網〕

漁獲量は46tで、昨年同月を13t下回った。キダイ、アカエビは昨年同月を上回り、アカガレイ、タコ類等は下回った。

〔釣り・その他〕

漁獲量は179tで、昨年同月を82t下回った。サバ類、トビウオ、アマダイ等は昨年同月を上回り、マダイ、スズキ、スルメイカ等は昨年同月を下回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(6月)

定置網	(kg)				
魚種名	2017年	2016年	平年	前年差	平年差
カタクチイワシ	10,075	7,709	7,971	2,366	2,104
アジ類	110,056	223,983	277,318	-113,927	-167,262
サバ類	47,581	77,249	57,844	-29,668	-10,263
マグロ類	7,344	4,611	5,373	2,733	1,971
カジキ類	2,162	872	595	1,290	1,568
カツオ類	521	173	1,777	348	-1,255
ブリ類	99,148	243,459	301,773	-144,311	-202,625
(ブリ)	28,396	45,486	60,775	-17,090	-32,379
(ワラサ)	2,102	8,047	12,315	-5,945	-10,213
(ハマチ)	19,157	79,454	63,337	-60,297	-44,181
(ツバス)	49,486	110,395	165,269	-60,909	-115,783
(アオコ)	7	77	77	-70	-70
サワラ	307,615	239,330	104,719	68,285	202,896
トビウオ	166,183	148,222	163,022	17,961	3,161
マダイ	9,156	3,952	9,652	5,205	-496
その他タイ	2,802	2,153	941	650	1,861
スズキ	11,971	19,634	8,537	-7,663	3,434
カマス	1,892	9,398	7,411	-7,506	-5,519
フグ類	9,854	2,110	8,123	7,745	1,731
スルメイカ	7,516	9,119	11,492	-1,603	-3,977
アオリイカ	1,427	217	845	1,210	581
ケンサキイカ	35,218	26,167	9,798	9,051	25,420
タコ類	610	961	607	-351	3
その他	17,644	15,863	21,047	1,781	-3,403
合計	848,775	1,035,180	998,845	-186,405	-150,070

底びき網	(kg)				
魚種名	2017年	2016年	平年	前年差	平年差
キダイ	1,260	26	899	1,235	361
アカガレイ	902	16,023	5,802	-15,122	-4,901

底びき網の続き	(kg)				
魚種名	2017年	2016年	平年	前年差	平年差
その他カレイ	331	2,118	1,430	-1,787	-1,100
タコ類	218	265	669	-48	-451
アカエビ	38,368	34,284	40,373	4,084	-2,004
その他エビ	2,433	2,931	3,762	-498	-1,329
その他	2,597	3,095	5,599	-498	-3,002
合計	46,109	58,742	58,534	-12,633	-12,425

釣り、延縄、さし網、その他の漁法	(kg)				
魚種名	2017年	2016年	平年	前年差	平年差
サバ類	2,479	651	215	1,828	2,264
サワラ	8,419	8,399	1,391	20	7,028
トビウオ	10,032	5,855	1,876	4,177	8,156
マダイ	1,508	2,005	2,942	-498	-1,435
キダイ	5,373	4,703	6,221	670	-849
アマダイ	4,135	2,933	4,355	1,202	-220
スズキ	2,177	5,902	5,365	-3,725	-3,189
ヒラメ	1,073	747	2,375	326	-1,302
その他カレイ	2,235	2,810	2,990	-575	-755
アナゴ	4,217	191	3,084	4,026	1,132
メバル類	3,517	3,281	4,626	236	-1,109
スルメイカ	40,988	118,601	190,837	-77,613	-149,849
アオリイカ	429	38	664	390	-235
ケンサキイカ	2,908	6,442	1,940	-3,534	968
タコ類	31,753	42,257	37,537	-10,504	-5,783
その他	57,327	55,399	88,674	1,927	-31,347
合計	178,569	260,215	355,092	-81,646	-176,523

全漁法	(kg)				
魚種名	2017年	2016年	平年	前年差	平年差
合計	1,073,453	1,354,137	1,412,471	-280,684	-339,018

※1 平年の値は2007-2016年の10年平均です。 ※2 ()は銘柄、その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。

※3 数値は小数点以下を四捨五入しています。

〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況…石川県：6月の定置網の1日あたりの漁獲量。京都府：6月にJF京都魚連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網の1日あたりの漁獲量。

兵庫県：6/1-6/30の余部定置網の1日あたりの漁獲量。鳥取県：6月中旬～7月上旬のまき網の1統あたりの漁獲量。)

石川県…定置網…マアジ12.5t、ブリ4.5t、トビウオ4.1t、フクラギ3.3t、サワラ類2.2t、マダイ1.6t

京都府…定置網…サワラ類11.9t、トビウオ2.6t、マアジ2.4t、ツバス1.3t、サバ類0.7t

兵庫県…定置網…マアジ258kg、スズキ53kg、トビウオ51kg、ツバス30kg、サワラ類5kg

鳥取県…まき網…マイワシ40.4t、マアジ12.4t、マサバ5.1t、ウルメイワシ2.4t、カタクチイワシ0.3t、ブリ類0.1t

(漁場環境グループ 山下 慎也)

平成29年度スルメイカ漁場一斉調査結果

日本海側の各試験研究機関によるスルメイカ漁場一斉調査が、6月下旬から7月上旬にかけて行われましたので、その結果についてお知らせします。

(1) 福井県の調査結果(調査期間：平成29年6月27日から7月1日 調査海域：図1の海域)

福井県沖合の4定点において、釣機6台を用いて毎晩20時～4時の8時間釣獲試験を行いました。

結果

- 漁場水温…釣獲海域の表面水温は19.8～23.3℃(2016年:21.2～22.9℃)、50m深水温は8.5～17.1℃(同:14.7～16.2℃)でした。
- 釣獲結果…総釣獲尾数は、893尾(2016年:1,340尾)、CPUE(釣り機1台1時間あたりの釣獲尾数)は0.3～15.0尾、平均5.2尾でした。
- 体長組成…釣獲されたイカの胴長(外套背長)は、6月27日の調査では18～19cm、6月28日、6月29日、6月30日の調査では20～21cmの個体が主体でした。

表1 調査点およびスルメイカ釣獲調査結果

月日	6月27日	6月28日	6月29日	6月30日
調査位置	N36° 40'	N37° 57'	N37° 40'	N37° 02'
	E134° 59'	E134° 59'	E135° 40'	E135° 40'
釣獲尾数	12	13	721	147
CPUE	0.3	0.3	15.0	5.3
平均胴長(cm)	18.6	20.6	20.4	20.2
表面水温(°C)	19.8	22.7	22.2	23.3
50m深水温(°C)	8.5	12.7	13.7	17.1
標識放流尾数(尾)	0	0	146	0
標識番号 (黄色アンカー型タグ)			JPN 168 169	

本調査では合計146匹のスルメイカの標識放流を行いました。標識の付いたスルメイカを採捕されましたら、水産試験場までご連絡をお願い申し上げます。

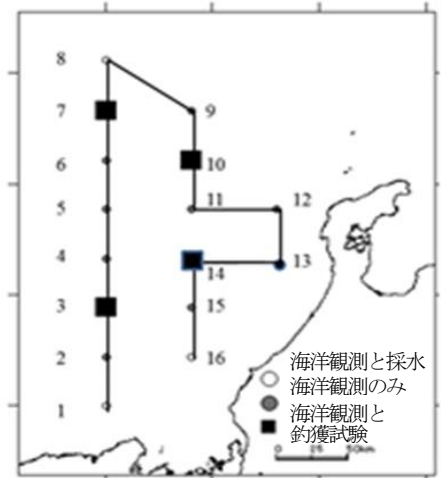


図1. スルメイカ釣獲調査定点

(2) 日本海全体の状況

日本海区水産研究所の取りまとめによると、全調査定点におけるCPUEの平均は12尾で、前年(11尾)を上回り、近年平均(17尾)の約70%でした。道北～道央海域では、外套背長17～18cm台の個体を中心に採集され、CPUEは38尾が最大でした。

西部日本海では16cm台以下の個体を中心に採集されました。いずれの調査点でもCPUEは20尾未満でした。沖合域では、大和堆周辺海域におけるCPUEは、他の海域より比較的高かったが、50尾以上の調査点はなく最大で43尾でした。

今後の見通しとして、西部日本海では、来遊量は前年並みで近年(平成24～28年)平均を下回っており、沖合からの南下群による好漁場は形成されにくいと予想されます。沖合域の来遊量も、前年並みで近年平均を下回ると予想されます。主漁場は、北海道西沖で8月～11月、大和堆周辺海域で11月～12月に形成されると予想されます。

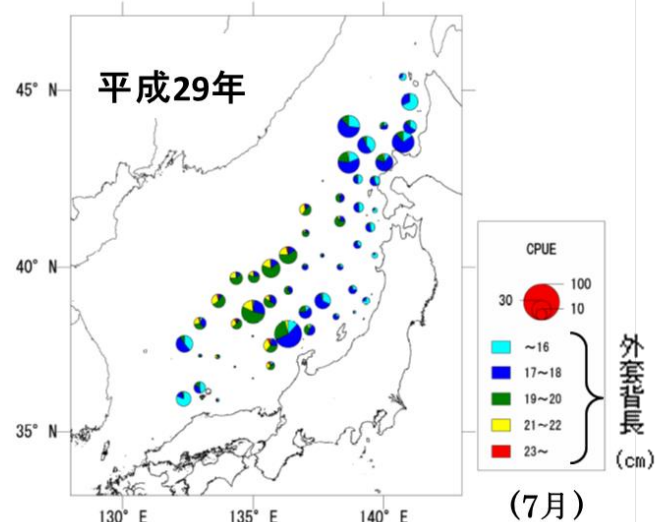


図2. 日本海におけるスルメイカの分布状況

(漁場環境グループ 山下 慎也)

～生き物の目線で藻場の環境を調べることに挑戦中です～

福井県沿岸の岩礁域にはホンダワラ類の海藻を主体とした藻場が形成されています。藻場は海洋全体の面積としては大きくはありませんが、様々な生物の生息場所や産卵場所となっており、重要な役割を担っています。また、藻場に生育する食用海藻、藻場に生息するウニ、アワビおよびサザエ等の動物は磯根資源と呼ばれ、水産業にとっては重要な資源です。そのため、福井県水産試験場では、藻場の面積、繁茂する海藻の種類等を調査し、藻場の維持・保全に関する研究を実施してきました。

磯根資源のうち、ウニ、アワビおよびサザエの漁獲量は減少しており、資源量が減少していることが原因の一つと考えられます。これらの生物は海藻を主要な餌として利用しており、餌環境の悪化はこれらの資源量に悪影響を与えると考えられます。餌環境を正確に把握するためには、これらの生物が食べている海藻を調べることが重要なのですが、実際に生物を解剖して調べてみると、海藻の小さな断片は見つかりますが、その形態から海藻の種類を特定することは困難でした。そこで、これらの海藻断片から DNA を抽出し、葉緑体に多く含まれる RubisCo のコーディング領域の塩基配列情報を利用して海藻の種類を特定することに挑戦しました。対象生物には、県内沿岸の岩礁域に生息するバフンウニを使用しました (図 1)。

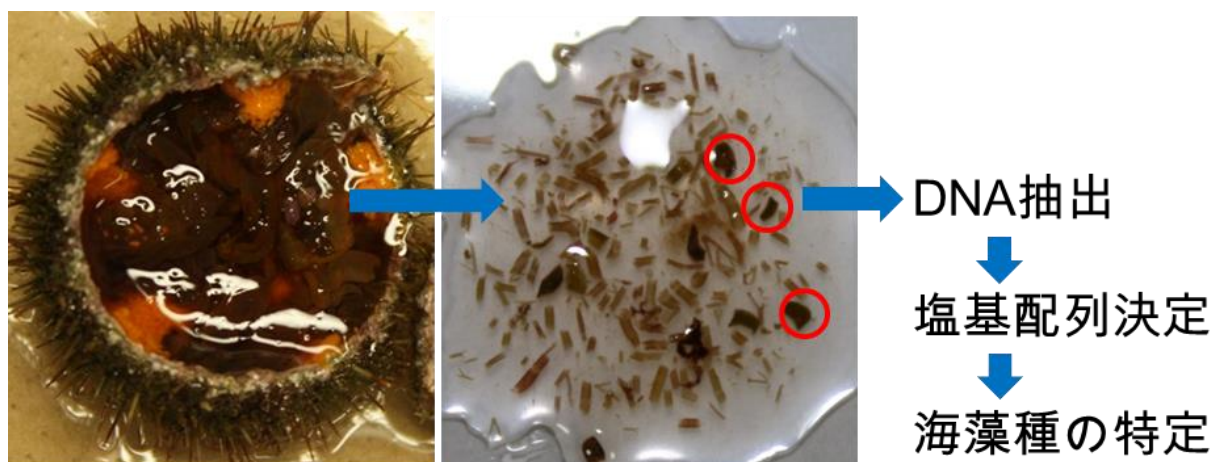


図1 バフンウニの消化管内に含まれる海藻断片の種組成調査のイメージ

その結果、藻場に生育するホンダワラ類の中でもイソモクとジョロモクがバフンウニの消化管内からほぼ周年検出されることが分かりました。これらの海藻をバフンウニが好んで食べているのか、それとも何か理由があつて藻場の中ではこれらの海藻しか利用できないのか、非常に興味深いところです。

将来的には、他種のウニ、アワビおよびサザエにも同様の手法で、藻場内における餌海藻の競合関係が明らかになってくると考えられます。その結果から、多くの磯根生物が生息出来る豊かな藻場を維持・保全するための効果的な各種事業が展開できると期待されます。

(技術開発グループ 仲野 大地)